

環境まちづくりをめざす

あじえんた

春

2003

第15号

2003年5月15日発行



みやこ

京
の
ア
ジ
エ
ン
ダ
2
1
フ
ォ
ー
ラ
ム
ニ
ュ
ー
ス
レ
タ
ー



巻頭特集

京都議定書を実行する 次なる一步

「歩くまち・京都市民リーグ」づくりに向けて

中小企業のための環境報告書の基準を

生ごみ堆肥化の地域モデルをつくろう

エコまつりマニュアルづくりでお祭りから社会へエコ化を広げる

環境にやさしい旅館・ホテルを広めるために

やっています！ 暮らしの工夫

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

伊東 真吾 さん

未来に残したい……
京の知恵

「引き戸」の楽しみ

もう一度自然に近づき

季節を味わいたいと思うとき、

柱式の住まいの「引き戸」は

頼もしい味方です。

ここにきて日本の家というものは

伝統主義や懐古趣味とは

異なるところで深い意味を

持ちだしてきたようです。

写真 山口洋典

＊詳しくは7ページをご覧ください

京都議定書を実行する 次なる一步

京都議定書
応援団

「ストップザ温暖化」

「歩くまち・京都市民リーグ」づくりに向けて — 交通ワーキンググループ今後の展開 —

交通ワーキンググループ(WG)・自転車タスクチームでは一昨年から〈まちなか駐輪場〉実験を行っている。2002年11月に1週間、まちなかに駐輪場2ヶ所を設置したところ、駐輪場のあるブロックでは路上駐輪がほとんどなくなった。中心市街地に自転車で来る人の目的の多くは買い物や遊びであることを考慮し、短時間の利用者に有利な価格設定をしたのが奏効したとみられる。今後、駅前でも中心市街地でも利用できる共通定期券のようなシステムを実現させれば、さらに利用増が見込めるであろうし、放置自転車対策やコミュニティビジネスとしても期待できるのではないかな。

3月には約2週間、京都市内の鉄道駅6ヶ所にレンタサイクルポートを設置、通勤・通学における「公共交通+自転車」の社会実験「歩くまち京都エコ交通プロモーション事業」を実施した。この実験でも、ポ

ートの一つJR二条駅での利用が多く、都市型レンタサイクルの潜在的需要があることが証明された。これまで交通システムとしての位置付けがなかった自転車を、交通システムのなかにどう組み込んでいくか、公共交通の利便性をどのように上げていくかを議論していくのが今後の課題だ。駅やバス停の間を自転車で繋げるパッケージアプローチも考えていきたい。

2002年度には各種の交通社会実験が行なわれたが、そうした活動と「京都の公共交通の未来を創る市民フォーラム」との連携が必ずしも十分ではなかった。そこで、「歩いて暮らせるまちづくり推進会議」などの地域組織と交通WGとが協働して都心交通をトータルに考えていくことを今年度のテーマに据えている。

京都市は基本計画で「歩くまち・京都」の推進を謳っており、それを活かすために

は、地域・市民が主体となってキャンペーンやムーブメントを生み出す仕掛けが必要だ。京都市内で交通まちづくりに関わり、行動し、発言してきた人たちが一堂に会す、いわば「歩くまち・京都市民リーグ」といった形で情報交換が確実にできるシステムづくりを進め、お互いが知恵と労力を出し合い、協調と競争が働く場づくりを中長期的展望で目指したい。

いま、地域・市民が主体の「歩くまち・京都」づくりへのアピールを起草中である。今年度は、2001年にフォーラムが提案した「都心のエコ交通プラン」が対象とした中心部におけるTDM(交通需要管理)のまちづくりに住民・事業者が参画する〈まちなか会議〉を立ち上げる予定である。「歩くまち・京都」をまず中心部で実現していくための足がかりとなる1年になるだろう。



左・右上：エコ交通プランのイラスト
右下：駐輪場実験の写真

国家間の思惑と利害に翻弄され、なかなか発効しない京都議定書。しかし足下の京都ではCOP3の精神が人々の意識と行動の底流になり始め、京のアジェンダ21フォーラムを中心として、京都の名が冠せられた地球温暖化防止の国際的な約束を、市民参加とパートナーシップで実行しようとする動きが沸々とわき起こりつつあります。京都を変えることで、全国、さらには世界の地球温暖化防止の動きを加速することができるのではないのでしょうか。ここではフォーラムの取組の一端にしかすぎませんが、今年、注目される動きのいくつかをご紹介します。

中小企業のための環境報告書の基準を — 企業活動ワーキンググループ再始動 —

3月27日（木）午後、京都市役所の会議室に企業、環境NGO、京エコロジーセンター、京都市などの関係者が集った。平成13年に中小企業のための環境管理規格「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」を世に出して以来、次の具体的活動に向けての取り組み開始である。

企業活動WGを母体として発足したKES認証事業部では、平成15年3月末までにのべ221件のKES認証登録を行い、中小企業の環境活動の輪を大きく広げてきた。認証取得企業は北海道から鹿児島まで全国に広がり、各地の市民や経済界、自治体でも連携した取組が始まるなど、京都発の取組が全国に波及している。

企業活動WGの新たなテーマは「環境報告書」。会議の席上、同WGの津村昭夫コーディネーター（（社）京都工業会環境委員長・日本電池

（株）環境管理室長）は「中小企業も環境に取り組むならば環境情報の開示や第三者の確認が必要だ」と語り、そのために中小企業でも気軽に取り組めるような数ページ程度の環境報告書のひな型を作ることが必要だと強調した。

また、このプロジェクトのリーダー役となる吉田陽氏（京都商工会議所・宝酒造（株）環境チームマネージャー）は環境報告書作成の意義を「①公表を前提として取組成果をまとめると活動の体系化、活性化が図られる。②従業員に自社の取組を知らせると活動への関心が高まる。③外部に見せると活動の継続性が保障される。」と語り、そのために必要な掲載項目の案を提示した。

企業活動WGでは、5月中にも素案をまとめ、環境報告書を試行的に作成する企業を募集する。そして今年度中にも環境報告書のひな型や手

引書を発表する予定だ。会議では「作成経費を抑える工夫を」「ひな型でデザインまで提供しては」といった意見が出され、中小企業の負担とならないような方策が検討された。また、読者層をどう想定するか、どのように配布・公表するかが重要な課題として挙がり、「普段の取引先や近所の皆さんとのコミュニケーションの手段となれば」「京エコロジーセンターから発信を」など様々な提案があった。

津村コーディネーターは「KES認証取得は環境マネジメントシステムができたという意味であり、取組成果を保証するものではない。環境報告書の作成により中小企業の関心がパフォーマンスにも向けば、KES制度を作ってきた一連のワーキンググループ活動の仕上げになる。」と語る。KESを生み出した京都から、新たな波が起きようとしている。



企業活動WGは新たな一歩を踏み出した

生ごみ堆肥化の地域モデルをつくろう — 食の循環ワーキンググループ —

昨年6月に発足した食の循環ワーキンググループ（WG）は、家庭での生ごみ堆肥のつくり方や地域の生ごみ減量事例の調査などを行ってきた。今年度は引き続き、地域コミュニティ型生ごみコンポストの可能性を探っていく。具体的には、下鴨と御室の2地域を舞台にして地域モデルをつくり、また、生ごみ堆肥化に関する地域向け出前教室やテーマ別学習会、また京エコロジーセンターと連携した市民向け学習会なども計画している。

4月12日（土）に下鴨の葵小学校で「葵エコクラブ土曜学習会」を開催、下鴨地域での「地域モデルプロ

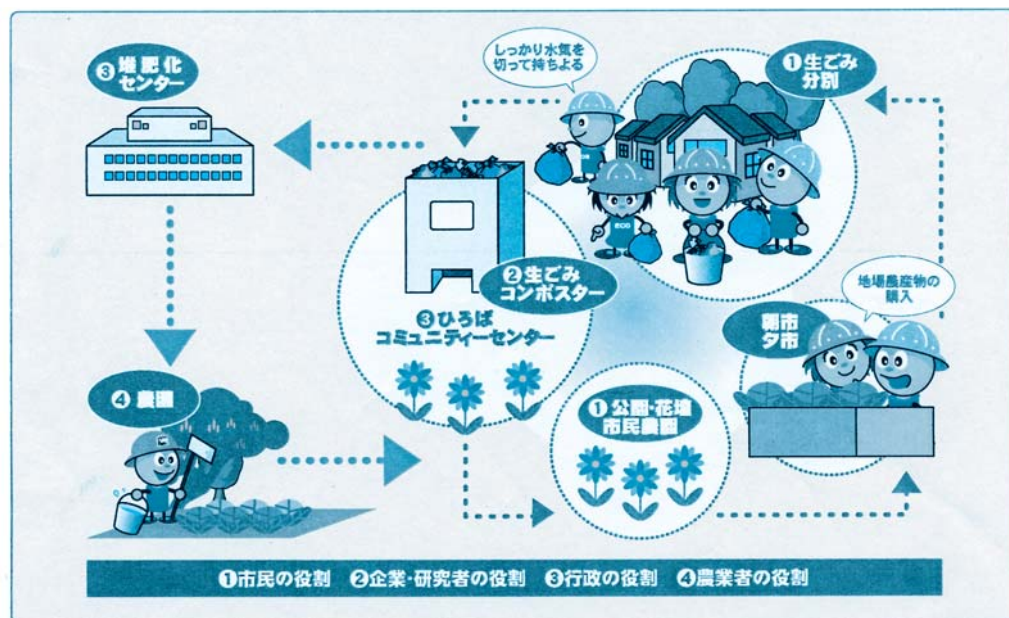
ジェクト」がスタートした。この日は地域住民や小学生ら十数名が参加、家庭での生ごみ堆肥のつくり方の紹介と実演を行なったが、参加者は興味津々の様子だった。学習会は、葵小学校を拠点として5回シリーズで開催する。

下鴨地域モデルのもうひとつの拠点となるのが京都府立大学である。「生ごみが出る前の段階の教育が必要。本来の食生活のあり方についても考えていくべき」と、府立大で食事学を研究されている南出隆久教授は語る。南出研究室の協力を得て、地域の人たちと共に学びながら、生ごみ収集の方法などの検討を進めて

いく。また、学習会や下鴨の事例を通じて、他地域や小学校でも活用できる学習教材もつくる予定。

全ての家庭で独自に生ごみ堆肥化ができるならいいが、そうはいかないのが現状。だから、住民が参加できる「中規模」の循環の方法、それも京都に合った方法を、地域で実験しながら探っていく。今年度の目標は、どのようにして各家庭から生ごみを集め、堆肥化し、それを活用していくかを地域の皆さんとともに考え、そして下鴨モデルを具体化すること。50世帯程度のモニターを募集し、生ごみ堆肥化のシステムを実験的に稼働させる予定だ。「食が

命の循環をしていることを参加者が実感できる活動を進めながら、生ごみを減らすシステムをつくりたい」とWGコーディネーターあざみの紡さん。地域での実験が進めば、都会での生ごみ減量の手法の一つとして注目されるだろう。



生ごみサイクルの仕組みづくり



左：第3回葵エコクラブ土曜学習会では畑にえだまめを植えました

右：葵小学校での第1回「葵エコクラブ土曜学習会」の様子

えこまつりマニュアルづくりで お祭りから社会へエコ化を広げる — えこまつりワーキンググループ —

3月末の鴨川河川敷で、リターナブル容器を使用したお祭りが開催された。えこまつりワーキンググループ（WG）メンバーが実行委員会に参画し、実験的に実施した。飲食店の数が減っているのに単純に比較できないが、昨年より目に見えてごみが減ったようだ。会場内ではリユースカップに貼られた啓発シール（下図）に注目している人も見られた。

えこまつりWGは、2001年～2002年の京のアジェンダパイロット事業への提案がきっかけで設立され、京エコロジーセンター2002年度調査研究事業として研究をすすめてきた。コーディネーターの太田航平さん（環境NPO「エコトーン」代表）は「お祭には様々な人が関わっており、社会の縮図のような場。ここが変われば、社会を変える可能性が見える気がする。大学祭のエコ化に取り組んだ経験をもとに、地域社会のお祭りのエコ化を実践していきたい」と語る。昨年度は、鴨川さくらまつりや平安神宮の初詣といっ

た、形態の違ったいくつかのお祭で、実際にエコ化の実験に取り組み、エコ化することで、どのような効果があるのか、目指している方向性の確認を行った。その結果、お祭りのエコ化には同様な課題があり、これをクリアすればどのようなお祭でも実行可能である手応えをつかんだ。今年度は、この課題解決を示したマニュアルを作成すると同時にリターナブルシステムをつくる。

主要メンバーである山本みかさん（ユニバーサルユース研究会代表）は、「ドイツの食器洗浄器付自動車『ゲシルモービル』を買えばいいと思っていたが、鴨川さくらまつりのリユースカップと食器洗浄機導入の結果、ものではなくて、ものを動かすシステムが重要であることに気付いた。『えこまつり』をやってみた人はいるが、どうしたらできるのかわからなくて、やりたくてもできない人がいる。マニュアルがあれば、どんどん『えこまつり』が広がるのではないかと考える。また、こう

いった主催者用のものの他に、店を運営する人用や当日の来場者用といった現場マニュアルの必要性も感じた。

マニュアルは机上でだけでは完成できない。実際にマニュアルをもとに様々なお祭りをやってみて、熟成し、完成させていく。いろいろなパターンのお祭りで実践して記録をためるために、昨年度のように全てのお祭りにWGメンバーが入るのではなく、マニュアルやリユースカップを貸し出し、主催者側に任せるエコ化実験も行う。普及に伴って、「えこまつり」を実践する人づくりができ、お祭りのエコ化の認知が進む。

「国際環境観光都市であり、『364日祭りがある』という京都で行うことで、観光者のほか大勢の人にアピールすることができる。三大祭の一つである祇園祭に環境の視点を入れれば、地域で自発的にいい行動が起こり、さらに日本中が変わっていくのではないかと太田さんの目標は高い。



リユースカップに貼られた啓発シール



鴨川河川敷に設けられたリターナブルステーション（鴨川さくらまつりにて）

リターナブル容器で提供（鴨川さくらまつりにて）

環境にやさしい旅館・ホテルを広めるために — エコツーリズムワーキンググループ —

エコツーリズムワーキンググループ（WG）では、これまで宿泊施設等のエコ化に向け、大学の研究室などと連携して調査・研究を行ってきた。昨年度はグリーン購入ネットワーク（GPN）の「ホテル・旅館利用ガイドライン」の策定作業に協力、3月にGPN「エコチャレンジホテル・旅館データベース」の開設をみている。しかし、現在のところ参加するホテル・旅館数が少なく、なお工夫が必要だ。宿泊施設等にエコ化に取り組んでもらうためには、その実効性を目に見える形で提示すべきであり、シティホテルを念頭において画一的な基準でなく京都の土地柄に見合った基準を策定すべきだ。

う。そこでWGでは、KESサービス業版の構築と併せて、京都における旅館・ホテルの環境対策を促進するための方策を下記の方針に従って検討していこうと考えている。

- ① KESサービス業版の構築と内容の検討
- ② 試行に向けた調査と試行事業者の選定・依頼
- ③ サポート体制（セミナーの実施、取組事例の情報やヒントなどの収集・紹介など）の検討と整備
- ④ ホテルや旅館が積極的に参加してくれるためのインセンティブの検討—など。

こうした作業を効果的に進めるためには、これまでのエコツーリズムWGのメンバーに加え、広い分野と立場からの参加者を得て論議を深める必要がある。KES認証事業部はもとより、宿泊施設、観光協会、行政、旅行業者、消費者などの参加と協力が不可欠だ。今年度中にどこまで作業が進められるかはわからないが、「環境・観光都市京都」の創造に向けて、まず宿泊施設のエコロジー化を進める第一歩を踏み出した。これから行っていく検討会議に、様々な分野から関心ある方々の積極的な参加をお願いしたい。

*当フォーラムエコツーリズムワーキンググループの取組について（宿泊施設のエコ化に関するもの）

- ① 1999年度 宿泊施設の環境問題に関するお客様へのアンケート調査
 - ② 2000年度 京都市内の宿泊施設の廃棄物調査
 - ③ 2001年度 京都市内の宿泊施設の環境対策への取組に関するアンケート調査
 - ④ 2001年4月 「環境管理認証制度」である「京都・マネジメントシステム・スタンダード（KES）」構築
 - ⑤ 2002年度 グリーン購入ネットワーク（GPN）「ホテル・旅館利用ガイドライン」検討会議に継続参加
- ※①～③については大学の研究室と協働で実施。

今回紹介できなかった以下のワーキンググループも、地球温暖化防止に向け活発な活動を展開しています。

ライフスタイルWG キャンペーンタスクチーム

2003年3月1日から5日5日までの間、フォーラムのコーディネートにより消費者、事業者、行政がパートナーシップで実施した「省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーン」は、多方面から注目を浴びました。今後の本格実施に向けて、現在着々と準備が進められています。

エコミュージアムWG

エコミュージアムとは、「地域まるごと博物館」。地域に元からあった「モノ」「コト」を住民自らが発見し生かす、まちづくりの仕組みづくりです。

現在、大原野森林公園の間伐材を、木質バイオマスエネルギーとして活用する可能性を探っています。

自然エネルギーWG

昨年から続けてきた「京都グリーン電力研究会」の成果がまとまってきました。

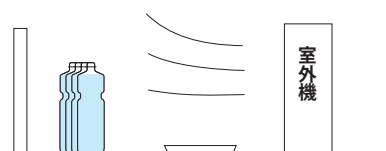
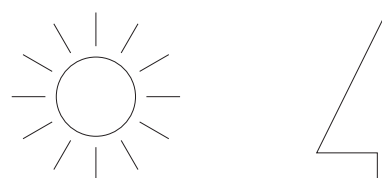
今年は「地域協働型自然エネルギー普及制度」の実験的な試みを行い、太陽光の有効活用による持続可能な地域づくりにつなげていきたいと考えています。

やっています！ 暮らしの工夫

『エコロジー相談室』に代わって『やっています！ 暮らしの工夫』欄を新設しました。日々の暮らしの中で実際に行なわれている環境に配慮したさまざまな工夫を紹介し、参考にしていただくのが狙いです。今回は、京都市が昨年行った「ストップザ温暖化京都市民会議」で報告された事例から。投稿は大歓迎ですので、皆さんの家庭での工夫や経験、アイデアを編集部までお寄せください。

太陽熱を利用するというとソーラー発電を思い浮かべますが、初期の設備投資がかなり高額になり、なかなか設置に踏み切れない人が多いでしょう。その点、太陽熱温水器なら少しは手軽に出来るというもの。東山区のT・Hさんは16年前に、家の改築に併せて太陽熱温水器を設置し、風呂用のお湯に利用しています。とくに夏場は追い炊きが必要ないくらい熱いお湯になり、ガス代の節約に大きく貢献。これまで1度水漏れした程度で、滅多に手入れもしないのに故障もないそうです。

伏見区のH・Yさんの工夫はユニーク。夏場にエアコンを止めることはなかなかできないので、せめてその廃熱を利用しようと、室外機のそばに水を入れたペットボトルを並べて置き（図を参照）、温まった水（お湯）を風呂や洗濯に利用しています。南向きのベランダにある室外機から20～30cm離れたところに、八分目まで水を入れたボトル4～5本を置きます。H・Yさんは「風通しが良くない方が良く温まる」と話していますが、風通しが良くないとエアコンの消費電力が増えるという説もありますのでご注意ください。



- ・南向きのベランダに室外機器があるような住宅なら可能
- ・ボトルには八分目まで水を入れて、室外機から20～30cm 離して置く（4～5本が適当か）。
- ・手すり部分は、風通しが良くない方が良く温まる。

其の拾伍 「引き戸」の楽しみ

いつの間にか柔らかな空気の手頃な季節になってきたので、戸をすべて開け放って快い風が家の中を静かに通りすぎるままにまかせ。こうなったら断然「引き戸」の独壇場です。

最近では引き戸がすっかり主流だが、これは開めることが前提で、開けたままではだらしなくカタチにならないし風に煽られて幼児にはとても危険です。

「引き戸」が消えたのは日本の戦後、国をあげて西洋化を目指したことに関係がある。その一つに「開き戸」があったが、これは壁で守られた部屋というものに入るための装置で、プライバシーという言葉の登場もこの頃からだったし、さらにコンクリート集合住宅の「合理的な」暮らしに憧れ日本の家はますます壁が主役の作り方になりました。

ときには壁式の家でも「引き戸」はあるが、高くなるので住宅屋さんにはイヤがるし、第一恰好がわるい。やはり「引き戸」というものは日本の柱式の家とセットで成り立っていることが分かってきます。

閉めても、半開きでも、開けても美しく、全部はずして開放感を楽しむことさえできる。自慢の「プライバシー」よりもっと大事なもののにも会えます。

もう一度自然に近づき季節を味わいたいと思うとき、柱式の住まいの「引き戸」は頼もしい味方です。ここに来て日本の家というのは伝統主義や懐古趣味とは異なるところで深い意味を持ちだしてきたようです。

恩地 惇

（会員、環境デザイナー）

（株）G K 京都取締役社長



ひと
まち
きたる

伊東 真吾 さん

待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」。
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動
されている方を紹介していきます。



京都を中心に活動するNGO「環境市民」に設立当初からボランティアとしてかわり、現在は環境関連業務を扱う有限会社「ひのでやエコライフ研究所」＝京都市左京区大菊町＝に勤めている。家では、よきパパ。写真を撮られるのが大嫌いだそう。

——フォーラムが中心となって取り組んでいる「省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーン」に関わっていらっしゃるんですが、その説明を……。

省エネ度に応じて電化製品に5段階のラベルを貼って評価し、ラベル付きの製品を店頭に置いてもらうという試みです。小規模店舗と量販店約20店にお願いして、家電の中でも電力消費量の大きいエアコンと冷蔵庫（2つで家庭の電力消費の4割を占める）にラベルを貼って頂きました。昨年の夏に東京都で先行して行なわれていますが、京都ではライフスタイルワーキンググループでの議論を発端に、市民も加わって企画が進みました。電器屋さんや量販店についても、ただ頼まれて協力するというだけでなく、企画会議にも入ってもらい、みんなで考えていこう……と。幅広い協働態勢を組んで活動を広めていくための、今は実験の第一段階といったところでしょうか。3月1日に始まって5月5日で一区切りし、その後、AAA～Cまでのそれぞれのランクの商品の売れ行きがどう変化したか、購買者の反応はどうだったかの分析を行います。

——このキャンペーンに関わられたきっかけは？

ラベルを作るには、省エネ度のもとになる評価基準をきっちりと定める必要があります。そのための調査や企画を、気候ネットワークの紹介で「ひのでやエコライフ研究所」が引き受けたわけです。エアコン600種、冷蔵庫250種ほどを対象に省エネ度の検討をしなければならず、なかなか大変な作業でした。

省エネの働きかけも、従来の努力を求める方式だけでなく、楽しみながらやっていけないかな……と。わが社の業務の大きな柱に環境家計簿の普及があるのですが、各家庭でつけて終わりではなく一人一人に通知表を渡し、何が出来たか、何が出来なかったかをチェックする。また、環境家計簿運動に参加した人たちの交流会をしたり、各家庭での工夫をまとめた冊子を配ったり。一人だけが頑張ってや

るのでなく、みんなでわいわいやろうよ、という雰囲気作りを大事にしています。

——今回の活動で印象に残ったことはありますか？

南区にある小さな電器屋さんでキャンペーンの説明に行ったとき、実はいきなり怒られた。「アジェンダやら、グリーンコンシューマーやら、カタカナばかりで何のことやらわからへんがな」って。それで用語の一つ一つを説明し、なぜこんなことやるのかも話したら、最後には「よっしゃ、わかった。うちはここで50年店構えてきたけど、一番大事なのは、いいものを長く使ってもらうことやと思ってる。気張ってやるわ」と言ってくれました。嬉しかったですね。一般の人には、環境団体名とかカタカナ用語はなかなかピンと来ない。でも、その壁を乗り越えたら、ずっと分かってもらえるんだな……と。もともと京都の人には、ものを大事にして無駄なものは買わないという傾向や、修理して使おうという気持ちが強いのだと思います。だから今回の試みも受け入れられるんじゃないかなと期待しているんです。

——これからこのキャンペーンをどのように発展させていきたいですか？

イギリスで最初のグリーン・コンシューマー・ガイドができた時、ガイドで「優秀」と評価されたスーパーの売上が、そうでない店に比べて増加した。つまり、消費者の行動が経済を動かしたわけですね。これがグリーン・コンシューマーの取組が社会的に評価される大きなきっかけになったと聞いています。今回の実験でも「これだけ二酸化炭素の排出削減につながった」という環境面での効果、そして個々の販売店で「単価の高い省エネ製品の売上に占めるシェアが伸び、これだけ増収増益になった」という経済効果をきっちりと示すことができれば、今後の展開に弾みがつくと思います。

（聞き手・撮影 千葉有紀子）

京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1)個人会員 1口 (2)団体会員 2口以上

*会費は郵便振替または銀行振込をご利用ください。

◇郵便振替口座：00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

◇銀行振込口座：UFJ銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググループへの参加、主催行事への参加など

みやこ

京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2003年春（第15号）

発行：京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都市環境局環境政策部地球環境政策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/

企画：同フォーラムニュースレター編集チーム

編集：河村吉宏・佐藤桂子・滋野浩毅・竹村光世・千葉有紀子・能村聡

デザイン・レイアウト：藤本芳一

※このニュースレターは風力発電による自然エネルギーを使用して、古紙100%の再生紙に大豆油インキで印刷しています。

